

第 35 回

2017. 09. 23

講 題 / テーマ：

欧州日本学の成立と「日本文化像の変遷」

講 師：

Willy. F. Vande Walle (天主教魯汶大學
文學部名譽教授特任教授、東洋學科教授)

▲ Willy. F. Vande Walle 教授

摘要：

對於日本文化的理解，隨歷史演變經歷了許多階段，理所當然現在也持續變化。有關對日本文化理解的記述性分析，從可能性來看至少能分三個層次：對日本一般的通俗理解、關於日本的學術研究、與針對日本文化與社會筆者提出自身的解釋。這三個層次彼此間在某種程度上相互鏈結，如繩結般緊緊相扣。或許無法清楚地分割這個鏈結，但本次演講最重要的論點旨在提出，無論哪一個層次，其視角與解釋圖像的觀點，總在兩個極端之間擺盪的事實，是在本次演講中企圖傳達的要點。

也就是說，在談論日本文化時，一方面會將日本歸入亞洲文化；更狹義的，或歸入



要旨：

日本文化の理解は、歴史的に多くの段階を経て来たし、言うまでもなく現在も変化し続けている。日本文化の理解に関する記述的



▲ 徐興慶教授

分析には、可能性として少なくとも三つのレベルが区別できる。すなわち、日本についての通俗的な理解のレベル、日本についての学術的な研究のレベル、更に日本文化・社会についての筆者自身の個人的な解釈のレベルの三つである。これら三つのレベルはある程度互いに纏れ合った縄のようなもので、それらを解き解すことが完全にできないかも知れないが、この講演の狙いにとって最も重要なのは、どのレベルにおいても、見たところ、解釈の図式の観点が、二つの極の間を揺れ動いているという事実である。

つまり、それは一方では、日本をアジア文化、より狭く言えば、中華文化の枠内に組み



所謂中華文化的範疇。而另一方面，則將日本與亞洲其他諸國切割，將日本作為特殊獨特的單一事例來看待的兩極。

當然，即使連日本人自己的論述也無法脫離在此兩極間搖擺的事實。不僅如此，這些自我論述會在單純的記述與提示規範的論說之間產生擺盪，也是不爭的事實。

有些論述者僅將自己理解的部分記述下來，而有些人會將日本文化應該展現的樣貌作為理想形象來論述。後者最有名的例子就是由福澤諭吉所論述的脫亞入歐論。另外，三島由紀夫提出的日本文化墮落的觀點，也可在川端康成的一部分小說中，見到類似哀悼日本文化的看法。這些同樣都是將理想形象作為前提的一種分析方式。◆



▲學生提問

込むか、他方では、日本を他のアジア諸国から切り離して、日本を特殊な、独特な事例として扱うかの両極である。

勿論、日本人による自己記述も同様に、この二つの極の間を揺れ動いていることも言うまでもない。それだけではなく、この自己記述というものは単なる記述と規範を示す論說の間を揺れ動いていることも事実である。

一方では、論者が自分が理解したと信じてるところを単に有りの仮記述するだけであるが、他方では、日本文化のあるべき姿をどうにか理想像として論述するのである。後者のアプローチの有名な例の一つに、福澤諭吉によって詳しく論じられた脱亜入欧論がある。また、三島由紀夫による、日本文化の墮落という見方も、川端康成のいくつかの小説に見られる、日本文化への挽歌のような見方と同様、理想像を前提とした分析の一つである。◆

第 36 回

2017. 11. 10

講 題 / テーマ：

前近代「宗藩體系」解體的隱秘邏輯
——對『中日修好條規』的再認識

講 師：

韓東育（東北師範大學副校長）



▲韓東育副校長

摘要：

明治維新發生前，日本為實現可與大陸政權相拮抗的「自中心化」目標，把更實質的工作定位為如何擺脫「宗藩體系」，通過不再向大陸政權請求冊封的方式來儘量減少與中國的落差式政治接觸。日本政要為完成這一「使命」，次第推進了三大步驟：一是拒絕冊封——豐臣秀吉的對外軍事行動及其和談條款，特別是那句「吾掌握日本，欲王則王，何待髡虜之封哉」的宣言，已明確地注解了該步驟的行動目的和實施細則；二是追求對等——德川幕府在對明文書中已經將「大明國」與「日本國」相對置，而對馬藩在對韓外交文書上亦已被明確要求廢止明朝



要旨：

明治維新以前，日本は中国政府に対抗して、日本が中心となるような「自己中心化」の目標を実現し、宗主国と藩属国という関係から脱却するために、中国政府に冊封を受けず、中国との政治的接触を減らしていき、非対等な関係からの脱却を目指した。日本政府は3つの段階を経て、この使命を全うした。第一に、冊封の拒否が挙げられる。豊臣秀吉の對外軍事行動及びその和平交渉条項にこの言葉がある。「わたしが日本を平定したのであって、国王になろうとすれば自分でなれる。どうして外国から日本国王に封じられねばならないのか!」。こうした宣言は、その行動の目的と実施規則を明確に示した。第二に、対等な待遇を求めることである。徳川幕府は明に宛てた文書の中に「大明国」と「日本国」の名称を記載しており、対馬藩は対韓外交文書上でも明朝年号の使用を禁じており、日本年号に改めるよう要求している。第三に自己冊封が挙げられる。徳川幕府は朝鮮国に対し、徳川將軍に差し



年號而改用日本年號；三是自我冊封——德川幕府要求朝鮮國王給德川將軍的國書上要換掉以往的「日本國王」而採用「日本國大君」這一新稱號。其中，形成於德川時期思想格鬥下的第二、第三格局，還在明治政府所借助的歐法權威下逐個得到落實——其制作《日中修好條規》之「對等」規則後對以往「宗藩體系」的逆向襲取並且在憲法層面上實現了「大日本帝國」的終極「自封」。進言之，肇端於「牡丹社事件」的日本征臺誇張、琉球竊奪、朝鮮併吞以及甲午戰後的臺灣割占等事件，無一不根源於《日中修好條規》這一所謂中日平等的法理前提。日本拆解宗藩體系的整體設計與虛實進路意味著，條規的簽署，不但讓中方喪失了東亞的傳統核心地位，還使清廷在日方的公法惡用中無法不棄琉保臺、棄韓自保直至割臺苟安。近代以降東亞格局的整體翻轉，亦始自條規，成於條規。◆

出す国書の記載を、これまでの「日本国王」から「日本国大君」という称号に書き換えるよう求めた。その中で徳川時代の思想を継承、発展させていく第二・第三の段階において、明治政府はヨーロッパ法の権威を借りて、日清修好条規の「待遇」規則を制定した後、これまでの「宗藩関係」から逆転し、憲法上では「大日本帝国」の最終目標である自己冊封が実現した。言い換えれば、「牡丹社事件」発端である台湾出兵・琉球処分・朝鮮併合及び甲午農民戦争後の台湾譲渡等の事件、これらは全て「日中修好条規」の中にある日中平等法理を前提にしている。日本が中国と条約を締結することによって「宗藩関係」を解体させ、それにより清が東アジアの中心的な地位を失うだけではなく、清は台湾を保持し、琉球と韓国を放棄することになったが、最後は保身のために台湾をも手放した。近代以降の東アジアは、条約によって情勢が変化していったのである。◆

第 37 回

2017. 12. 08

講 題 / テーマ：

日本近世の思想と文化—知の伝達メディアの
視点から

講 師：

辻本雅史（中部大學副校長兼國際中心長・
京都大學名譽教授）



▲辻本雅史教授

摘要：

「媒體即是訊息」，這個由麥克魯漢所提出的論點指出，在「知」本身的內容背後，能夠傳遞「知」的媒體，比起它原來的定位其實具有更大的訊息性。媒體擁有改變世界的力量。現在持續進行中的「媒體革命」正劇烈改變著世界。那麼，在更早以前的「媒體革命」到底是如何進行的呢？我將 17 世紀的文字及商業出版的普及，定位為「17 世紀日本的媒體革命」。這個時期的媒體革命，究竟是如何改變江戶時代的「知」和社會呢？這次的演講，將概觀江戶時代裡所出現

要旨：

「メディアはメッセージである」、このマクルーハンテーゼは、知の内容以上にその知を伝えるメディアのあり方自体が、より大きなメッセージ性を持つことを言ったものである。メディアは世界を変える力を持つ。そしていま進行中の「メディア革命」は劇的に世界を変えつつある。では、その前の「メディア革命」は、いつどのように進化したのか。17世紀の文字と商業出版の普及を、私は「17世紀日本のメディア革命」ととらえている。そのメディア革命によって、江戸





「知的風景」，而它又如何與 19 世紀後半，日本急速的近代化緊密相關聯呢？我將從審視日本近世思想與文化本身的定位開始，做進一步探討。特別是儒家思想的展開過程

裡，不論是漢籍古典的閱讀方式，或是如何闡述思想家們的思想，皆是息息相關的。透過這個演講，希望帶給作為「知的據點」而存在的現代大學一些啓示。◆



▲徐興慶教授

時代の知と社会はいかに変わったのか。本講演は、その江戸時代にあらわれた「知の風景」を概観し、それが19世紀後半の急激な日本の近代の形成とどのように関わったのか、それを日本近世の思想と文化のありかたに注目することで語ってみたい。とくに儒学思想の展開において、漢籍古典を読む読み方と、思想家の思想の語り方が、不可分に関わっていることを考えてみたい。そのことを通して、「知の拠点」としての現代の大学のあり方に、一定の示唆を示してみたい。◆

第 38 回

2017. 12. 14

講 題 / テーマ：

日本の消費者運動と消費者政策、倫理的消費

講 師：

大野敦（立命館大學經濟學部准教授兼國立政治大學客座副教授）



▲大野敦教授

摘要：

消費社會論認為，消費者運動與消費的型態有連續性的關聯。目前以歐美國家為中心，「良知消費」（Ethical consumerism）這樣的名詞十分膾炙人口，並顯現出在消費層面上日漸興盛。正因如此，在日本也以消費社會論為中心，對於良知消費確實擴展這件事，抱持著樂見其成的看法。另一方面，分析良知消費的實際情況，可以得知日本與歐美國家，在它的深度與在社會上扮演的角色有所不同。再加上，雖然統稱作歐美國家，實際上卻可分作美國、英國、法國等，在各個國家間有著截然不同的展開。如此一來，若以消費社會論來思考，將此直線性且連續性的消費型態，等同視作為倫理化、社會化，似乎有點過於樂觀。



▲蘇顯揚教授

要旨：

消費者運動と消費の形態は連続的な繋がりと消費社会論では考えられている。現在、欧米を中心に倫理的消費という言葉が人口に膾炙し、消費の面でも盛り上がりを見せている。こうしたことから、日本でも消費社会論を中心に、倫理的消費が確実に拡がると楽観視する視点が大きい。一方で、倫理的消費の実態を分析すると、日本と欧米ではその深度や社会的な位置付けが異なっている。また欧米と一口に言っても、アメリカ、イギリス、フランス等では、全く異なる展開を示している。こうしたことから、消費社会論が考えるように、単線的に連続的に消費が倫理化し社会化されると考えるのはやや楽観的である。



▲學生提問



本次演講，將透過星巴克咖啡所販賣的良知商品，在日英美各個國家間展現出的差異，探討各國消費者運動的類型，並且找出其資訊差異的原因。政府、消費者團體、企業所提供給消費者的資訊，其質的不同，將與各國的良知消費的類型差異息息相關，本次演講將對此進行考察。◆

本講演では、日英米におけるスターバックスコーヒーの倫理的商品の展開の差を当該社会における消費者運動の類型とそこにおける情報確定の違いに原因を求め、政府、消費者団体、企業から消費者に対して提供される質的情報の違いが、各国の倫理的消費のタイプの違いに繋がると考察する。◆



第 39 回
2017. 12. 25

講 題 / テーマ：

日米中關係の現段階

講 師：

高木誠一郎（公益財團法人日本國際問題研究所・
研究顧問）



▲高木誠一郎先生

摘要：

根據戰略三角理論，以兩兩關係的好壞和三者關係的穩定性，可以分成下列四種類型：

1. 三邊家族型（穩定）：三者之間皆為友好關係。
2. 羅曼蒂克型（不穩定）：三者之中有兩者互相敵視，但分別跟第三方友好。
3. 結婚型（穩定）：三者之中有兩者相互友好，但分別跟第三方敵視。
4. 單位否決型（不穩定）：三者之間皆為敵視狀態。

從中國的策略發展角度而言，應避免成為結婚型三角關係中的孤雛，並致力於成為羅曼蒂克型三角關係中的樞紐。



▲何思慎先生

在分析日美中現階段關係之前，簡單回顧 2010 年左右的局勢變化。中國方面，一改過去由鄧小平所提出的韜光養晦路線，姿態轉趨強硬。美國方面，在歐巴馬任期間提出亞太再平衡戰略。日本方面，自安倍晉三

要旨：

戰略的三角理論に基づき、3対の二者關係の良し悪しと三者關係の安定性から、以下の四つのタイプに分けることができる。

1. 三共存型（安定）：3対の二者關係がすべて友好關係にある。
2. 恋の三角關係型（不安定）：3対のうち1対は敵對關係にあるが、それぞれともう一者と（2対）は友好關係にある。
3. 結婚型（安定）：3対のうち1対は友好關係にあるが、それぞれともう一者と（2対）は敵對關係にある。
4. 三国志型（不安定）：三者が敵對關係にある。

中国の戰略發展の面から考えると、結婚型の三角關係の中で孤立するのを避け、恋の三角關係における中軸の立ち位置を目指すべきだと言える。

日米中關係の現段階を分析する前に、2010年頃の局面の変化を簡単に振り返ってみる。中国は鄧小平が過去に提唱した「韜光養晦」路線から脱却し、強硬な姿勢に転じた。米国では、当時の大統領であったオバマがアジア太平洋再均衡戰略を掲げた。日本では、安倍晋三首相が二度目の

首相上台後，終結了第一次安倍政權以來頻繁更換首相的局面。以下，將分別檢視日美、美中和日中兩兩之間的關係。

1. 日美關係：雖然在民主黨執政期間因沖繩基地等問題有所摩擦，但在安倍政權上台後，透過改變憲法解釋等作為持續擴大日本方面協助防衛的基礎，並配合歐巴馬政權所推動的區域經濟整合，雙方關係邁向穩定友好。新任總統川普上台後亦無帶來太大轉變。
2. 美中關係：由於中國方面追求新型大國關係，和美國確保全球霸主地位的目標相衝突，兩國持續在戰略上呈現對抗的態勢，但仍然在部分領域尋求合作可能。
3. 日中關係：自釣魚台領土爭議和中國國內爆發反日行動以來，兩國內部人民對於彼此的親近感持續下降，雙方領導人的互動亦不熱絡，兩國關係很難進行全面改善。

綜上所述，中國在日本和美國之間為尋求自身利益最大化所進行的挑撥離間宣告失敗。日美關係基本上維持穩定友好，而分別跟中國存在對立和合作的領域。日美中未來的關係走向，存在兩種發展可能性。其一，由於中國受迫改善對美和對日關係，日本進而



▲學生提問

而接近羅蒂克型三角關係中的樞紐位置，三者得以維持基本的良好關係。其二，中國持續與日美兩國對立，尋求對歐等關係的強化，脫離戰略三角關係的發展。◆

政權を握った後、第一次安倍政權以降続いた頻繁に首相が交代するということはなくなった。以下、日米、米中、日中に分けて二国間の関係について検討していく。

1. 日米關係：民主党政権期に沖縄基地等の問題から摩擦が生じていたが、安倍政権になってからは、憲法解釈の変更等を通して日本側は防衛面での協力基盤の強化を続けている。またオバマ政権が進めていた地域的経済統合にも協力し、双方は安定した友好関係を築いてきた。新たにトランプが大統領となってからも、大きな変化は見られない。
2. 米中關係：中国側が「新型大国関係」を追求したことで、米国のグローバルな覇権の確保という目標と衝突することとなった。両国は戦略の上では対抗の姿勢を見せているが、部分的には依然として協力の可能性を模索している。
3. 日中關係：尖閣問題および中国国内での反日感情の爆発以来、両国の世論における相互認識は悪化の一途をたどっている。また、双方の指導者の関係も良いとは言えず、両国の関係を全面的に改善するのは容易なことではない。

以上をまとめると、中国は日本と米国の間で自身の利益の最大化を求めて進めていた離間政策に失敗したといえる。日米は基本的に安定した友好関係を維持しており、それぞれ中国との間に対立と協力という二局面が存在する状態にある。日米中関係の今後の発展の方向として、二つの可能性がある。一つは、中国に対米、対日関係改善の圧力をかけることで、日本が恋の三角関係の中軸に近づくことを通じて、3の基本的に良好な関係ができる場合、そしてもう一つは、中国が日米両国と対立を続け、対欧等の関係強化を求め、戦略的三角関係から離脱する場合である。◆

第 40 回

2018. 03. 01

講 題 / テーマ:

日・中・韓の留学生と近代学知の形成

講 師:

孫安石 (神奈川大學外國語學部教授)



▲孫安石教授

摘要:

■ 上海研究

- ① 日本外務省外交資料 外務省警察史料
→ 上海朝鮮人與越南—日本與法國
上海總領事館的警察
- ② 日本外務省史料館、國史館—租界関連
檔案
→ 租界的成立×擴張、消滅
越界築路の問題—上海、台灣、日本
租界回收的問題
—日本、上海、台灣國史館
- ③ 旅遊指南研究領域之開拓
—1930年代—『良友』
—中國都市指南—天津、北京、滿州國、
朝鮮、台灣
—1950年代—『旅行家』
—1970年代—下放

要旨:

■ 上海研究

- ① 日本外務省外交資料 外務省警察史料
→ 上海の朝鮮人と越南—日本と法国
上海總領事館警察
- ② 日本外務省史料館、国史館—租界関連
檔案
→ 租界の成立×、擴張、消滅
越界築路の問題—上海、台湾、日本
租界回收の問題
—日本、上海、台湾国史館
- ③ 旅行案内の研究という分野の開拓
—1930年代—『良友』
—中国都市案内—天津、北京、滿州国、
朝鮮、台湾
—1950年代—『旅行家』
—1970年代—下放



■ 上海無線廣播電台の研究

『舊中國的上海廣播電台』
(上海市檔案館、1985年)
上海人民廣播電台、
華東人民廣播電台之研究
上海市檔案館

日本軍占領時期的中國
廣播播報

滿州國時期的廣播播報

英國領事館中文播報—中央研究院



▲田世民教授

■ 上海の無線廣播電台研究

『旧中国的上海广播电台』
(上海市档案馆、1985年)
上海人民广播电台、
华东人民广播电台の研究
上海市档案馆

日本軍占領時期的

中国における广播放送

満州国における广播放送

在英国領事館における中国語放送—中
央研究院



▲學生提問

■ 中國人留學生史研究

日本外務省外交史料館の史料

國史館—教育部的檔案

研究視点之開拓—留學經費、日本人的

中國留學、留學生的實習、參觀◆

■ 中国人留學生史研究

日本外務省外交史料館の史料

國史館—教育部的檔案

研究視点の開拓—留學經費、日本人の

中国留學、留學生の實習、見学◆

第 41 回

2018. 03. 13

講 題 / テーマ：

- 【一】ポピュラーカルチャーの歴史的過程—マス・メディアと流行・ファッション—
- 【二】伝統文化から新しい文化へ—ポピュラーカルチャーから考える—

講 師：

仲川秀樹（日本大学文理学部教授）



▲仲川秀樹教授

摘要：

【一】

在報告裡將整理社會學中流行文化的意義，對從中分化出帶有娛樂性的次文化要素進行再檢討。擬將次文化視為是相對於主流文化、並處於周邊地位的事象。本次演講將試著分析大眾媒體的「潮流」現象。具體事例將以 1970 年代到 2000 年代的流行與時尚為主軸，探討時代趨勢以及大眾意識隨時代遷移的變化。特別是針對 2000 年以來蔚為潮流的「可愛い現象」，嘗試藉由台灣和日本的實際比較，並報告實際上的效果及其有效性。



▲曹景惠教授

要旨：

【一】

社会学におけるポピュラーカルチャーの意味を整理し、ポピュラーカルチャーから分化し、エンタテインメント性をもつ、サブカルチャーとして再検討する。サブカルチャーはメインカルチャーに対する周辺に位置するものとしてとらえる。マス・メディアからトレンド現象の分析を試みる。具体的には、1970年代～2000年代の流行とファッションを軸に時代性、時代における人びとの意識の変化を考えてみる。特に、2000年代のトレンドでもある「可愛い現象」を台湾と日本の比較を試みながら、実践的な効果とその有効性を報告したいと思う。



【二】

本報告以大衆文化爲要點，探討以傳統文化爲主軸之新文化的樣貌。以傳統文化爲基底所設計的吉祥物不只能夠吸引年輕人以及小朋友的目光，同時也能保存過去的傳統。希望藉由讓大衆文化和次文化中的娛樂性順應現代社會，並且以理論的角度來實際地探討建構新傳統的方法。尤其，吉祥物的功效除了爲行政單位和區域社會的活化帶來莫大的影響之外，其有效性也是值得注目的焦點。包括台灣和日本的吉祥物文化之間的相異點，希望能與在場的學生們一同探討這些話題。◆



【二】

伝統文化を軸にした新しい文化の姿を、ポピュラーカルチャーをメインに考えてまいる。伝統文化を下地に新たなキャラクターを用いることで、若者や子どもたちの関心も深まり伝統を維持することにもなる。ポピュラーカルチャーとサブカルチャーの内在する娯楽性を現代社会に適応し、新たな伝統形成のための方法を理論から実践的に、考える時間になりたいと思う。特に、キャラクターのもたらす効果は、行政や地域社会の活性化にも多大な影響を与え、その有効性も注目されている。台湾と日本のキャラクター文化の相違なども合わせ、学生のみなさんと考える時間になりたいと思う。◆

第 42 回
2018. 03. 27

講 題 / テーマ：

江戸時代の往来物資料と現代日本語研究

講 師：

郡千壽子（日本大学文理学部教授）



▲郡千壽子教授

摘要：

在此，將介紹日常生活裡難以接觸到的江戸時代「往來物資料」（江戸～明治時代的教科書。將用於書信或作文的短句、例句、社會常識、實用知識等以書信形式編入其中的初等教育教科書）。

我們已經知道，日本的「往來物資料」，事實上也存在於在韓國及中國。

要旨：

普段、なかなか見ることのできない、江戸時代の往来物資料を紹介する。

日本の往来物資料(江戸時代の教科書的な資料群)は、韓国や中国にも所在することがわかっている。





藉由讀解這些江戶時代的文獻資料，來考察現代日語的形成與「往來物資料」是如何相互影響的。並且，進一步思考江戶時代文獻中的用語，如何影響現代日語、並促成其中的變遷。

それら江戸時代の文献資料を読み解くことを通して、現代の日本語の形成に往来物資料がどのように関わっているかを検討考察する。江戸時代に使用されていた資料群に見られる用語から、現代語がどのように影響を受け、変遷してきたのかを考えてみたい。



▲林立萍教授

以現代日語中的同義語，表現味覺的「おいしい」と「うまい」這兩個形容詞為例，介紹江戶時代的文獻資料在現代日語研究中的具體用處。◆

現代日本語の同意語である、味覚表現の「おいしい」と「うまい」の関係を例にして、江戸時代の資料群が現代日本語研究にも有用であることを紹介する。◆



▲來賓提問

第 43 回

2018. 06. 05

講 題 / テーマ：

リベラル国際秩序の危機と日台関係

講 師：

遠藤乾（北海道大学法学部・公共政策
大学院教授）

▲遠藤乾教授

摘要：

民粹主義の盛行大致可歸納爲以下兩大主因。其一、經濟條件的惡化威脅到中產階級：世界上百分之一的人手握百分之九十九的收入所造成的貧富差距；其二、社會文化上的認同：因全球化的關係，人們開始意識到自身存在價值是否有被替換的可能。而全球化的發展引發了政治的難題，丹尼・羅德里克指出「世界經濟的政治三難困境」：高度全球化、國家主權與民主主義，這三項是無法完全兼顧的，任兩條件的成立勢必都會壓縮到第三個選擇。例如：中國與新加坡在強大的國家主權下，推行全球化來壓縮民主主義。又如 WTO 與聯合國透過全球治理將世界權力集中、並試圖透過 NGO 及大會等以若干民主方式來解決世界問題，但國家主權可能因此遭到犧牲。現今民主政體的國民主權對全球化充滿敵意。

要旨：

ポピュリズムの興隆は以下の2つの主な理由にまとめることができる。まず一つ目は、經濟的條件の劣化が中流階級の人々を脅かしていることである。世界の収入上位1パーセントの人々と残りの99パーセントの間の貧富の格差がかぎを握っている。二つ目は、社会文化的アイデンティティである。グローバル化によって、人々は自身の存在価値が道具として打ち捨てられ、顧みられないことにならないか意識し始めている。經濟グローバル化の發展は政治的困難をもたらす。D.ロドリックの「世界經濟の政治的トリレンマ」理論によれば、高度グローバル化、国家主權、そして民主主義の3点をバランスよく保つことは不可能である。このうちいずれか2点が同時に成立すれば、残りの1点が犠牲となる。例えば、中国とシンガポールは強力な主權的意思の下でグローバル化を推進し、民主主義は結果的に抑えつけられた。あるいはWTOと国連が世界を管理し、それをNGOや總會などによっていくばくか民主的な方法で運営しようとするれば、国家主權が犠牲になりうる。今は、民主的な國民主權がグローバル化に牙を剥く。



民粹主義的盛行造成各民主國內部產生矛盾，導致機能不全。另一方面，這也讓信奉權威主義的國家得以擴張他們的勢力。在現實中最明確的事例，就是中國成爲「Depreciative Empire」，亦即壓制普遍價值並擁有巨大滲透力的大國。中國透過投資其他國家基礎建設、收購其他國家媒體，並意圖滲透至民主國家，形成所謂的「Sharp Power」。

爲了重建自由主義國際秩序、促使中產階級再生並維持社會水準，各國會如何攜手合作並做出回應，都將影響先進民主國家乃至台日關係。而台日更須深化彼此的合作關係，並考慮未來如何推展雙贏的布局。不可否認近年來雙方關係稍有停滯，希望台日在各議題上擴大大意見交流，並且共同改善日漸嚴重的世界危機。◆

ポピュリズムの興隆は各民主国内部の矛盾と機能不全を引き起こし、他方で権威主義体制国の権力が拡大している。最も分かりやすい例は、中国が「切り下げの帝国」、即ち普遍的価値を押し下げる浸透力を持つ大国として興隆していることである。中国は他国のインフラに投資し、他国のメディアを買収したりしながら、民主国に浸透を図る「シャープ・パワー」になった。

リベラル国際秩序の再建、中流階級の再生及び社会水準を維持するために、各国がいかに連携して対応するのかということは、先進民主国、ひいては日台関係にも影響を及ぼすと思われる。日台は、互いに協力を深め、いかにしてWin-Winの関係に持っていくことを考える必要があるだろう。近年両国の関係は少し滞っていることは否めないが、今後は様々な問題についての意見交換を拡大させ、ますます深刻化する世界危機を改善していくことを希望する。◆

第 44 回

2018. 06. 11

講 題 / テーマ：

轉換期を迎えつつある国際政治：アメリカの変容との東アジアへの影響

講 師：

箕原俊洋（神戸大学大学院法学研究科教授）



▲箕原俊洋教授

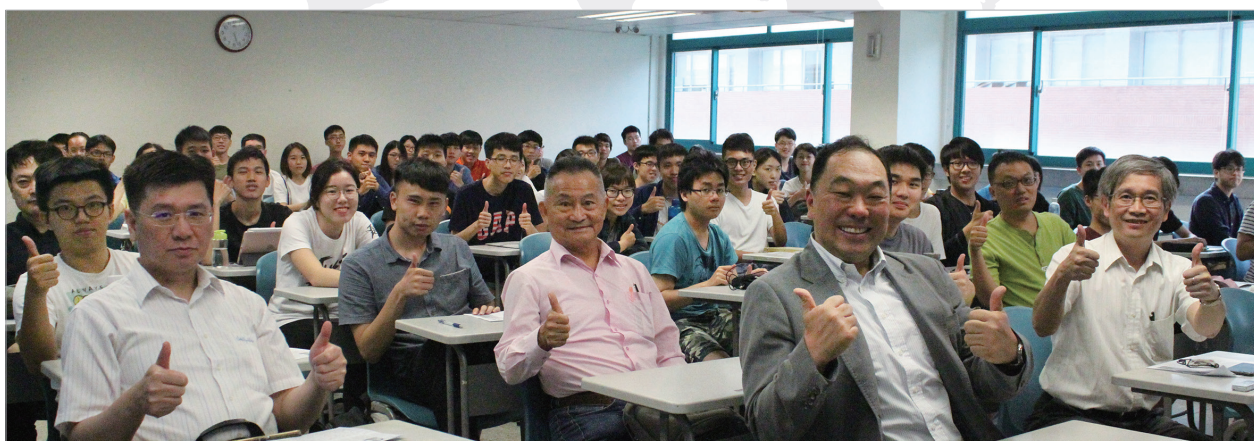
摘要：

就任将届一年半的美國總統唐納・川普，他將國務卿以及總統國家安全事務助理都解雇，一如往常的大砲發言以及破格舉動已撼動美國國內乃至整個世界。

要旨：

就任からまもなく一年半が過ぎつつあるドナルド・トランプ米大統領。國務長官、そして大統領補佐官(安全保障担当)までをも解任し、相変も変わらず型破りの語り口と規範を打破する行動が米国内のみならず、世界を動揺させている。





本演講擬以當今迎接國際秩序的轉換期作為基礎，解說至今為止川普總統的政策是如何開展的。此外，當今中國的崛起讓美利堅治世 (Pax Americana) 受到巨大的挑戰，並且苦思應對之策。在國際政治進入激動期



▲何思慎教授

的時代，今後世界將何去何從？本演講將思考美國的轉變、並探討逐漸緊張的東亞情勢和日美關係、日台關係、以及美台關係，來檢討今後的世界情勢。◆

國際秩序的轉換期を迎えている現在を踏まえつつ、本講義ではこれまでの大統領の政策がいかに関開されたのかを解説する。くわえて、昨今の中国の台頭によってパクス・アメリカナは大きな挑戦を受け、その対応に苦慮している。国際政治が激動期に突入しつつある時代において、世界は今後のどこへと向かうのか。本講義ではアメリカの変容を考慮しつつ、緊迫化が増す東アジア情勢と日米関係、日台関係、そして米台関係にも触れながら今後の世界情勢について検討する。◆